

◎ 評価対象分野・施策の方針

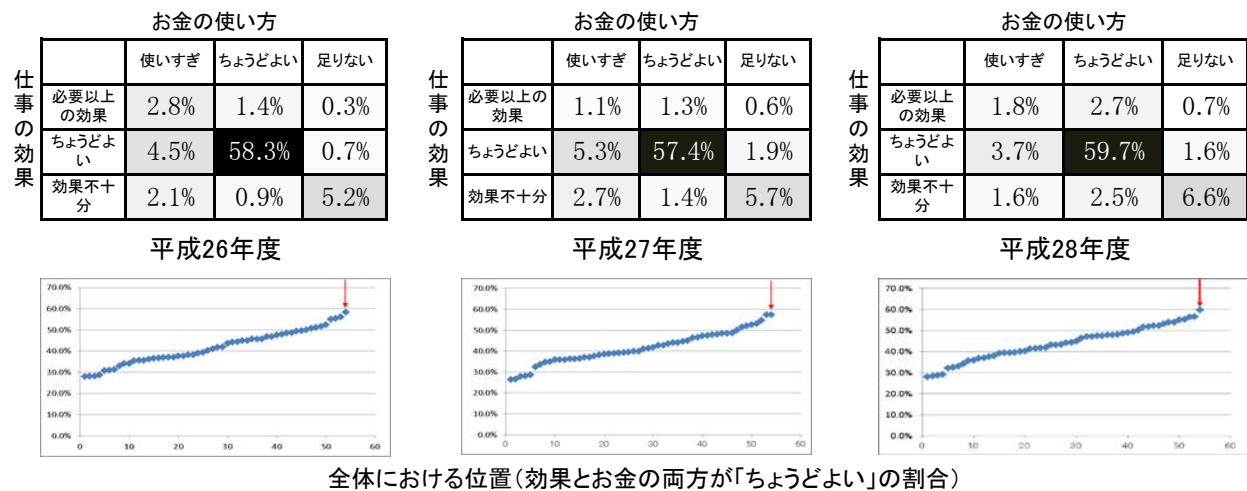
総合計画上の位置付け	分野	防災・安全	施策の方針	消防機能の整備・充実
------------	----	-------	-------	------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	17.1%	平成27年度	16.7%	平成28年度	14.7%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



<妥当性の分析>

- お金の使い方、仕事の効果とともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成28年度は59.7%と選択肢中では最も多く、次に多いのはお金の足りなく、効果不十分6.6%、次はお金の使いすぎで効果はちょうどよい3.7%である。結果として市民意識では、お金と効果ともにちょうどよいという状況にあると捉えることができる。
- お金の使い方と仕事の効果両方が「ちょうどよい」と答えている割合は、平成27年度から2.3%上昇したが、今後も市民に対し消防理解を得るため積極的にアピールしていくことが必要であると考え。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	17.2%	61.8%	1.8%	19.2%	100.0%
平成27年度	15.5%	59.9%	2.1%	22.5%	100.0%
平成26年度	14.7%	60.4%	1.9%	23.0%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

- 腰越地区の消防力の維持のため、平成28年度中に腰越出張所の開庁を目指す。(消防-04)
- 職員による実戦的防ぎょ訓練、図上訓練等を定期的の実施し技術及び知識の伝承を図る。(鎌倉・大船消防署警防)
- 消防出初式や消防訓練指導を実施して、市民への防火防災意識の向上を図るとともに、防火対象物の立入検査を実施し、消防法令違反対象物に対して改善指導を行う。(消防-01、消防-10)
- 高機能消防指令センターを適切かつ効果的に運用するため、職員研修及びシステム安定稼働のための維持管理を行う。(消防-09)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
消防-01	消防運営事業	40,448	40,503	74,237	75,705	4.3	4.5	b	B
消防-02	消防施設管理事業	27,182	16,064	31,897	23,887	0.6	1.0	b	B
消防-03	消防団運営事業	59,326	97,761	67,184	105,584	1.0	1.0	b	A
消防-04	消防施設整備事業	50,483	324,336	55,198	328,247	0.6	0.5	b	B
消防-05	警防活動事業	23,524	19,705	35,145	35,111	1.5	2.0	b	B
消防-06	救急活動事業	12,282	12,539	23,903	24,093	1.5	1.5	a	A
消防-07	消火栓管理事業	5,905	4,075	13,652	11,778	1.0	1.0	b	B
消防-08	車両購入事業	74,648	165,372	82,395	173,075	1.0	1.0	b	B
消防-09	指令活動事業	35,664	72,851	131,748	168,895	12.0	12.0	b	B
消防-10	予防活動事業	1,217	685	81,542	76,815	10.5	10.0	b	B
	鎌倉・大船消防署警防			1,561,370	1,549,937	193.0	192.0	b	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

- 平成29年3月腰越地区の消防拠点である腰越出張所を改築し、津波避難ビル機能及び鎌倉市消防団第22分団を併設した。(消防-04)
- 鎌倉・大船消防署において、各種災害を想定した実戦訓練及び図上訓練を実施し、消防技術及び知識の向上を図った。(鎌倉・大船消防署警防)
- 恒例の消防出初式では、消防職団員の士気の向上が図られ、地域の自主防災組織の参加も得て市民の防火防災意識の向上を図った。(消防-01)
- 自主防災組織や防火対象物関係者に対し消防訓練指導を実施して、防火防災意識の向上を図るとともに、防火対象物の立入検査を実施し、消防法令違反対象物に対して改善指導を行った。(消防-10)
- 高機能消防指令センターを適切かつ効果的に運用するため、職員研修の実施及びシステム安定稼働のための維持管理を行った。(消防-09)

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	☒ 適切	☐ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	☒ 適切	☐ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善
<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等> 消防力の強化充実として、高機能消防指令センターの適切な維持管理、鎌倉消防署腰越出張所を改築するなど災害活動における効率性及び防災拠点の整備を行った。 また、各課各事業については、多種多様な業務に対し適切に消防の責任を果たした。			

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

消防は市民の生命・身体・財産をあらゆる災害から守るということが、総合的な成果と考える。公共施設の再編計画を考慮し、活動の拠点となる消防庁舎の維持管理を継続して行い、消防職団員の知識、技術を高めるために各種研修、訓練などを受講させ、迅速的確な現場活動の遂行を目指すことが市民の安全安心を守ることにつながるものとする。また、市民向けの救急講習、消防訓練等を定期的に開催し、救命率及び防火防災意識の向上を目指す。更に、防火対象物の立入検査を通じて適正な防火管理指導及び消防法令違反対象物の撲滅を継続的に実施していくなど、消防業務全般の強化を図っていく。

4 平成29年度の目標

- ・消防活動の拠点となる庁舎の適切な維持管理を進めていく。
- ・職員の世代交代による経験不足のための実戦訓練を計画的に実施する。
- ・高機能消防指令センターの効率的な運用を実施する。
- ・AEDの普及による救命率の向上を目指す。
- ・市民の救命率を向上するため、救急講習の受講人員の向上を図る。
- ・市民の防火防災意識の向上を目指すとともに、防火管理指導を徹底する。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	消防-04	事業名	消防施設整備事業							
指標の内容	腰越出張所庁舎改修の進捗状況					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由 消防の活動拠点である庁舎 (腰越出張所)の改築のため	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	平成29年 2月改築 工事完了		
	目標値	30.0	50.0	100.0						
	実績値	30.0	40.0	100.0						
	達成率	100.0%	80.0%	100.0%						

整理番号	評価対象外	事業名	鎌倉・大船消防署警防活動							
指標の内容	若手消防職員の経験不足解消にともなう訓練等の実施					単位	%	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由 多数の団塊世代職員の退職 により、年齢層が若返り、消防業 務の継承が急務であるため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0					
	実績値	60.0	65.0	100.0						
	達成率	60.0%	65.0%	85.0%						

整理番号	消防-06	事業名	救急活動事業							
指標の内容	救急講習の達成率					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由 心肺蘇生法及びAEDの取扱 いを習得してもらい、市民による 救命率の向上を図るもの。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値	3,000.0	3,000.0	3,000.0	5,000.0					
	実績値	3,975.0	4,061.0	4,020.0						
	達成率	132.5%	135.4%	134.0%						

整理番号	消防-03	事業名	消防団運営事業							
指標の内容	消防団の装備の充実、機能強化に伴う貸与品の整備					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由 消防団員の安全確保のため	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値			100.0	100.0					
	実績値			75.0						
	達成率			75.0%						

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・住宅用火災警報器の設置は大きな目標となっているが、実態も不明で指標もない。
- ・団塊世代職員の退職により、年齢層が若返り、消防業務全般の継承が急務である。技術や地域情報の伝達、継続性が問題である。
- ・消防出初式が市民の防災意識につながっているという根拠が分からない。
- ・老朽化が著しい消防庁舎の維持管理について、適切な修繕補修を行い、諸課題を整理することが求められる。
- ・市民向け各種講習、訓練は具体的に何を行っているのかが明らかになっていない。
- ・指標となっている「訓練等の実施」「検査等の実施」は何を母数としているのか。また「円滑な指揮命令による災害活動等の達成率」とはどのようなことかが明らかになっていない。

指摘への対応、コメント等

- アンケートによる設置率調査を実施し実態を把握しています。また、設置率100%を目標に普及啓発を実施します。
- 実戦的な訓練を毎月1回以上実施し、若手職員の技術の向上を図るとともに、再任用者による技術の伝承を行う。
- 消防出初式での救助訓練や各ブース(防災・AED・住宅火災警報器)により来場者への防災意識向上を図っている。
- 消防庁舎は、消防活動の拠点であることから適切な修繕を行い消防の責任を果たす。
- 市民向けの講習として、救急講習や防火防災講習、訓練として消防訓練指導(避難訓練、消火訓練、通報訓練等)を行っています。
- 訓練及び検査等は年度当初に年間計画を策定し、その計画を母数としています。
円滑な指揮命令による災害活動等の達成率は、高機能消防指令センターの構築及び機器の維持管理などハード面に対しての指標としています。

・腰越出張所の建替にあたっては、もう少し高台に移転することや、近隣2箇所の消防署強化による対応を検討したのか、他の機能を持たせた複合施設とすることができなかったのかが明らかになっていない。

腰越出張所については、津波想定浸水範囲外での建替を検討してきましたが、適地がないことと、地元住民の希望により既存地への建替となりました。また、津波避難ビルとしての機能を有し、消防団の器具置場を併設した複合施設となっております。

提言

・「すべての一般住宅に火災報知器設置」が有効な手立てなのであれば、更なる設置促進を進めるべきである。

・若い職員への継承の達成率が65%にとどまっている要因を把握し、計画的な指導を行うべきである。

・消防施設機能の強化・消防職員のパワーアップに次ぐ防火・防災手段について検討し、重点的に手を打つべきである。



提言に関するコメント等(総論)

消防の使命は、市民の安全・安心を守ることであり、火災・救急・救助のあらゆる災害においても安全、確実、迅速な活動で被害を最小限に抑えなければならないと考えています。その中で、住宅用火災警報器設置については、あらゆる機会を捉えて設置促進PRを実施します。

若い職員への継承は、すぐに100%の技術に達することはできないことから、再任用者の活用を含め段階を踏んで計画的に取り組めます。

施設機能の強化、職員のパワーアップに次ぐ防火防災手段については、広域応援の充実、強化を図り消防の責任を果たします。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・腰越出張所の開庁により同地区の消防力維持津波避難ビル機能及び鎌倉市消防団第22分団を併設したことは評価できる。
- ・災害時の拠点として活用できるよう各署所の修繕、保守点検等消防庁舎の維持管理を行った。
- ・救急活動事業の積極的に目標値を上げて取り組む姿勢は評価したい。
- ・消防職員の訓練が行き届いている。動きが機敏である。
- ・職員による実戦的防ぎょ訓練、図上訓練等を定期的を実施し技術及び知識の伝承を図っている。

評価の内訳					⇒	委員会の評価
取組	↗	2	↘	0	→	6
効果	○	4	△	0	—	4
						→
						○

《課題》

- ・消防職員は若手が活躍する職場である。多数の団塊世代職員の退職により、年齢層が若返り、消防業務の継承が急務である。
- ・消防機能の整備・充実については、インフラ機能以外の人的な強化内容についても、明記して頂きたい。(大会への出場・記録など)
- ・緊急車両が進出出来ない狭隘な道路などにおける対策等についても記載して頂きたい。
- ・「自主防災組織への消防訓練指導を実施」とあるが、地区イベントへの参加による啓蒙とともに、各自主防災組織の現状について把握し個別提案することが課題である。
- ・「火災報知器の設置促進」は実態把握と他自治体好事例の把握が必要なのではないか。

《提言》

- ・シートにまだ記載されていない取組で市民に提示すべき内容があるのではないかと。取っている対策をできるだけ多く、書き記してほしい。
- ・団塊世代職員の大量退職は予期出来た現象である。今更ではあるが、「知識・技術の伝承を狙いとする研修・訓練」は計画的に実施すべきである。
- ・訓練参加が100パーセントなのは当たり前である。質の向上をどのくらい図ったかということが重要。技術レベルをBからAにするなどを目標とし、指標として設定すべき。
- ・老朽化が著しい消防庁舎の維持管理について、適切な修繕補修を行い諸課題を整理する必要がある。
- ・鎌倉には消防車が入れないような小さな路地が数多くある。火災時の対応策はあるだろうが、心配である。狭隘路地へのホースの展開、消防設備機器の対応などが必要である。
- ・消防団自体の強化と共に、消防・防災に大きく関わる都市整備や建築関連部局との連携や、市民意識の向上への注力などで、市全体の消防対策強化に努めてほしい。

《質問》

- ・「救命講習」は受講人数目標を達成しているが、消防当局が受講を希望する対象者への働きかけは行っているか。